

英兵16人の冥福祈る

第二次大戦中に捕虜

第二次世界大戦中、熊野市紀和町の紀州鉾山に捕虜として連行され、強制労働に従事した末に亡くなった英兵の追悼式が十一日、同町の英国人墓地で営まれた。元捕虜の親族ら七人が英国から訪れ、地元住民らとともに墓前に花を手向けた。

(福永保典)

熊野の墓地で親族

かつて鉾山には英兵三は一九九二年から行われ、百人が連行され、このうち、捕虜だった英兵やそち十六人が病気や事故などの親族が式典に参加し、どで亡くなった。追悼式 墓の手入れなどをしてい

る地元高齢者らと交流を重ねてきた。鉾山以外で旧日本軍に捕虜にされたオランダやニュージラードなどの元連合軍兵士らも訪れるという。

この日の式典には、紀州鉾山で労働した元捕虜(故人)の娘スーザン・リチャードソンさん(66)や、別の元捕虜(同)の義理の息子ジョン・スミスさん(66)、ジャワ島で旧日本軍の捕虜だった元



英兵の墓に花を手向ける元捕虜の娘、スーザン・リチャードソンさん(熊野市紀和町)

英兵ウィリアム・マンデイさん(66)らが参列。地元住民も約四十人が出席し、一緒に賛美歌を歌い、母国から遠く離れた地で亡くなった十六人の兵士の冥福を祈った。

息子を連れて八年ぶりに来日したスーザンさんは「父は生きて国に帰ったが、日本で命を落とし

た仲間たちのことをずっと忘れられずにいた。父は紀和町を再訪し、地元の人との交流を通して日本への許しと和解ができたのだと思う」と話した。

二度目の来日となるスミスさんは「義父は長年の捕虜経験で心に傷を負っていたが、墓を守ってくれている人たちとの出会いが大きな慰めとなった。地元の人たちに感謝したい」と礼を述べた。